

記 録

中国地方岡山県における アカオネツタイチョウ *Pheathon rubricauda* の初記録

公益財団法人山階鳥類研究所 富田 直樹
公益財団法人山階鳥類研究所 岩見 恭子
株式会社池田動物園 鳥獣保護センター 藤山 愛子
株式会社池田動物園 鳥獣保護センター 服部花奈子

A record of a red-tailed tropicbird *Pheathon rubricauda* at Okayama Prefecture, Japan

Naoki TOMITA, *Yamashina Institute for Ornithology*
Yasuko IWAMI, *Yamashina Institute for Ornithology*
Aiko FUJIYAMA, *Wildlife Conservation Center, Ikeda Zoo*
and
Kanakano HATTORI, *Wildlife Conservation Center, Ikeda Zoo*

はじめに

アカオネツタイチョウ *Pheathon rubricauda* は、太平洋とインド洋の熱帯から亜熱帯に広く分布し、これらの海域の海洋島で繁殖する (Orta, 1992)。日本では亜種 *Pheathon rubricauda rothschildi* が繁殖し、環境省のレッドデータブックに絶滅危惧 I B 類 (EN) として掲載されている (環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2014)。ただし、本亜種は、太平洋に分布する別亜種の *P. r. melanorhynchus* と同亜種として扱われている場合もある (Orta, 1992)。日本では、これまでに南鳥島 (清棲, 1978; 河原, 1993)、硫黄列島の南硫黄島 (昶山, 1930; 清棲, 1978; 塚本, 1983) と北硫黄島 (昶山, 1930; 清棲, 1978; Chiba *et al.* 2007)、小笠原諸島の西ノ島 (倉田・金子, 1982) で繁殖記録がある。日本の最大規模の繁殖地である南硫黄島では、1982年に53巣200個体以上が、2007年に23巣100個体以上が確認されている (塚本, 1983, 川上ほか, 2008)。また、本種の飛来は、東北地方

北部から八重山諸島までの広範囲で確認されており、偶発的あるいは不定期なものとして記録されているが、これまでに岡山県を含む中国地方での記録はない (岡山県生活環境部自然保護課, 2009; 日本鳥学会, 2012)。本記録では、2016年10月に岡山県で初めてアカオネツタイチョウの幼鳥の飛来が確認されたので報告する。ただし、亜種分類に関する上述の理由により、本記録では亜種名を記載しなかった (Orta, 1992)。

観察および保護時の状況

本個体は、2016年10月3日に岡山県瀬戸内市邑久町尾張の駐車場内 (北緯34°39'N, 東経134°05'E) で、うずくまった状態で発見され、同4日に岡山県鳥獣保護センターに保護された (図1)。同センターで、小魚などが給餌されたが、同12日に死亡した。死亡後、本個体は、山階鳥類研究所に送られ、解剖後、仮剥製として保管された (標本番号YIO-74332; 図2)。解剖の結果、外傷はなく、胸筋は痩せており、皮下脂肪はほとんどみられなかった。さらに、脱水症状が確認されたため、本個体の死因は、衰弱死と考えられた。

連絡先: tomita@yamashina.or.jp



図1. 岡山県瀬戸内市邑久町尾張で発見され、岡山県鳥獣保護センターに保護されたアカオネットタイチョウの幼鳥 (2016年10月4日).

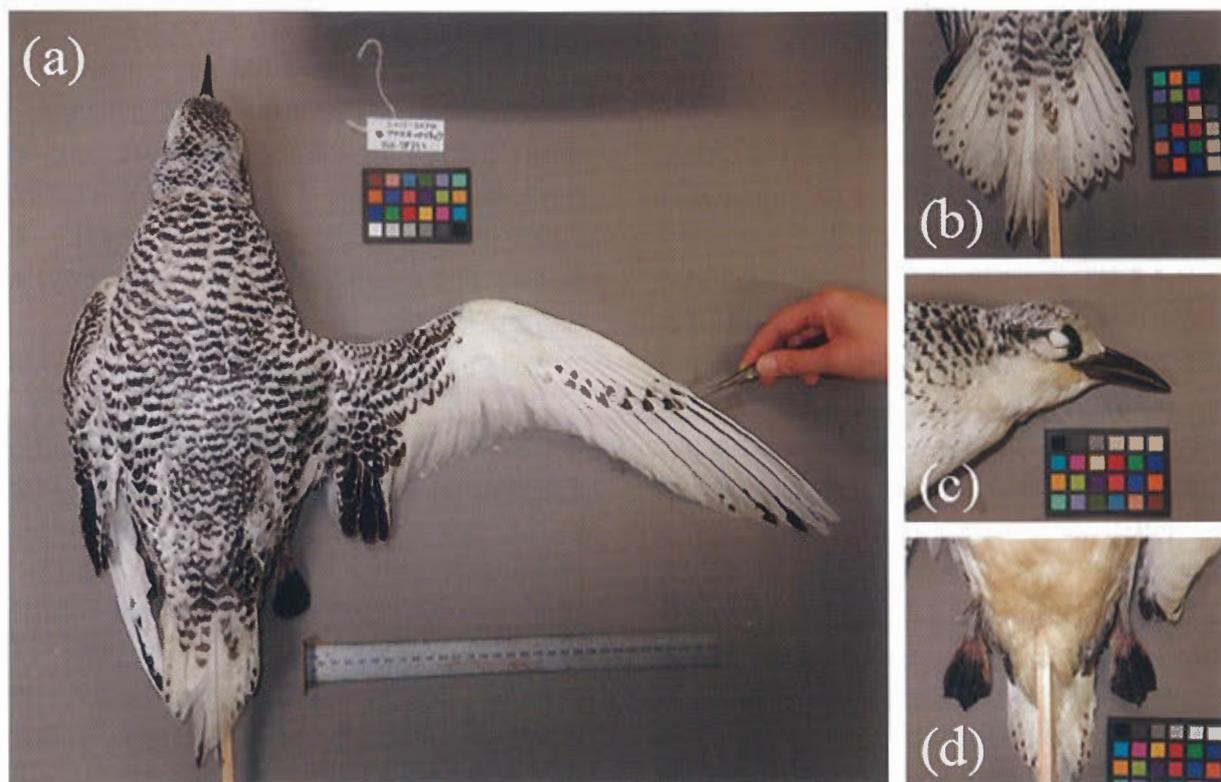


図2. 岡山県で保護後、死亡したアカオネットタイチョウの幼鳥の仮剥製。山階鳥類研究所に保管 (標本番号YIO-74332)。(a) 体上面と翼 (右), (b) 尾羽, (c) 顔 (右), (d) 脚.

形態の記載と種を判断した基準

本個体は、全身が白色で、後頭部から体の上面および上尾筒の羽には黒色の幅の広い横斑があった(図2a)。初列風切は白色で、外側2枚目(P9)から5枚目(P6)の羽端には黒色の斑紋があり、黒色の羽軸とつながっていた。尾羽も初列風切と同様に白色で、全ての羽端に黒色の斑紋があった(図2b)。なお、成鳥の特徴である朱赤色で細長い中央尾羽はなかった。嘴は黒色で、縦に扁平で先端は鈎曲せず尖っていた(図2c)。外鼻孔は前額近くの嘴側にあり、細裂形であった。過眼線は黒色で、後頸でつながっていなかった。脚は跗蹠から肉色で、第2趾から第4趾の第1関節から先は黒色であった(図2d)。爪は全て黒色であった。全蹠足で第3趾が最も長かった。性別は、解剖で卵巣を確認し、雌であった。

Svensson (1992) と Baker (1993) にしたがって、外部計測値はノギスを用いて0.1mm単位(尾長、翼長、全長は物差しを用いて1mm単位)で、体重は電子天秤を用いて0.1g単位で測定した: 露出嘴峰長 53.7mm, 全嘴峰長 61.8mm, 嘴高長(鼻孔前端/後端) 17.7mm/19.8mm, 嘴幅長(鼻孔前端/後端) 7.3mm/11.9mm, 頭長 111.2mm, 跗蹠長(右) 29.5mm, 尾長 124mm, 自然翼長 314mm, 最大翼長 322mm, 全長 467mm, 体重 415.7g。

本個体は、脚が全蹠足で、嘴が縦に扁平、外鼻孔が細裂形であることから、ネッタイチョウ科の3種(アカハシネッタイチョウ *P. aethereus*, アカオネッタイチョウ, シラオネッタイチョウ *P. lepturus*) に絞られた(清棲, 1978; Harrison 1985; Orta, 1992)。また、ネッタイチョウ科に特徴的な伸長した中央尾羽はなかったため、幼鳥と判断された。太平洋東部、大西洋およびペルシャ湾や紅海の熱帯から亜熱帯に分布し、日本では記録がないアカハシネッタイチョウの幼鳥は、嘴が黄色がかり、左右の過眼線が後頸でつながっている点で、本個体と異なる。太平洋、大西洋およびインド洋の熱帯から亜熱帯に分布するシラオネッタイチョウの幼鳥は、嘴が鈍く黄色がかり、初列風切の外弁の黒色の範囲が広く、各部位の計測値が本個体よりも小さい点で、本個体と異なる(例えば、シラオネッタイチョウ: 翼長 239-272

mm, 跗蹠長 19-23mm, アカオネッタイチョウ: 翼長 317-326mm, 跗蹠長 27-30.5mm, 清棲, 1978)。これらの外部形態の特徴から、本個体は、アカオネッタイチョウの幼鳥と同定された。

考 察

岡山県のはるか南方の繁殖地で巣立ったと考えられるアカオネッタイチョウの幼鳥が、同県に飛来した理由として、台風の影響が考えられる。本個体が発見された2016年10月3日以前に発生し岡山県付近を通過した台風は、16号(9月20日に四国南岸を通過)と18号(10月5日に中国地方日本海側を通過)の2つで、両台風共に硫黄列島付近で発生し、南西諸島を回って北上した(気象庁, <http://www.data.jma.go.jp>)。本個体は、このどちらかの台風に流され南方から飛来した可能性がある。本種の岡山県を含む中国地方への飛来は、本記録が初めてだが、国内の広い範囲で偶発的な飛来が確認されている(日本鳥学会, 2012)。したがって、今後も岡山県への同様の飛来は考えられる。

謝 辞

最初に本個体を発見し、岡山県鳥獣保護センターに連絡をくださった発見者(匿名)、本個体の保護情報を提供してくださったNPO法人バードリサーチの堀江明香氏、種同定に際し資料の提供と本原稿に意見をくださった公益財団法人山階鳥類研究所の平岡考氏、これらの方々に感謝申し上げます。

引用文献

- Baker, K., 1993. *Identification Guide to European Non-Passerines: BTO Guide 24*. 332pp. British Trust for Ornithology, Thetford.
- Chiba, H., Kawakami, K., Suzuki, H. & Horikoshi, K., 2007. The distribution of seabirds in the Bonin Islands, Southern Japan. *J. Yamashina Inst. Ornithol.* 39: 1-17.
- Harrison, P., 1985. *Seabirds: an Identification Guide. Revised Edition*. Croom Helm, London.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室(編), 2014. レッドデータブック2014-日

- 本の絶滅のおそれのある野生生物 - 2 鳥類.
250pp. ぎょうせい, 東京.
- 河原恭一, 1993. 南鳥島における鳥類の観察記録. *Strix* 12: 243-247.
- 清棲幸保, 1978. 日本鳥類大図鑑Ⅲ, 増補改訂版. 536pp. 講談社, 東京.
- 倉田洋二・金子博, 1982. 溶岩の島にみる創世記. *アニマ* (115): 6-12.
- 粕山徳太郎, 1930. 小笠原諸島竝に硫黄列島産の鳥類に就て. *日本生物地理学会会報* 1 (3): 89-186.
- 日本鳥学会, 2012. 日本鳥類目録改訂第7版. 438pp. 日本鳥学会, 三田.
- 岡山県生活環境部自然環境課, 2009. 岡山県野生生物目録2009. 379pp. 岡山県生活環境部自然環境課, 岡山.
- Orta, J., 2006. Family Phaethontidae (Tropicbirds). In: del Hoyo, J., Elliott, A. & Christie, D.A. (eds.) *Handbook of the Birds of the World. Vol 1.* pp. 56-163. Lynx Edicions, Barcelona.
- Svensson, L., 1992. *Identification Guide to European Passerines, fourth, revised and enlarged edition.* 368pp. Published by the author, Stockholm.
- 塚本洋三, 1983. 南硫黄島の鳥類. 「南硫黄島の自然」(環境庁自然保護局編). pp. 249-285. 財団法人日本野生生物研究センター, 東京.